

物価抵抗年表

(抵抗運動)

明治

一九年

敷金天引廃止期成同盟 大阪の悪習慣であった家主本位の敷金預証書の書き替えをせまった。

二三年

米騒動 富山県、鳥取市内、福島県若松、佐渡愛川などで窮民米商を襲撃、軍隊出動。

二五年

糞尿汲取代値上反対運動 博多市民と周辺農民との糞尿代金値上紛争。

三〇年

長野警察襲撃事件。米価暴騰で石川県の主婦米屋に値下げ強請。長野県下伊那飯田では精米所襲撃、警官・憲兵と激突。

三六年

(社会的背景)

明治

一七年

松方デフレで農村不況深刻。伊藤、井上憲法起草に着手。自由党员ら群馬県陣馬ヶ原に囚人を集め、生産会社を破壊、警察署を奪取(群馬事件)。自由党员専制政府打倒を叫んで警官と交戦。

前田正名『興業意見』出る。

一九年

鹿鳴館大舞踏会を開催。

天野為之『経済原論』、中江兆民訳『理学沿革史』。

二二・三三年

わが国最初の資本主義恐慌。窮乏の農民都市に大量流入、不熟練労働者として都市貧民下層社会を形成。士族の没落とプロレ

生協設立 商人の暴利に対抗し、夕張炭鉱の鉱夫が共同店を組織。慶応など学生の生活協同組合及びサラリーマン、下級官吏などの生協設立が続出。

三九年

日比谷電車焼打事件 市電運賃値上げの反対大会が激化して群衆の直接行動となった。

四〇年

共同浴場の計画 フロ代値上げの対策として大衆が浴場設立を計画。

四一年

地代家賃引上反対同盟 東京・北海道などで高い家賃地代反対の同盟が生まれた。

タリア化の時代でその数一五七万人といわれた。

金鵝勲章を定める。東海道線全通。第一回衆議院選挙。パリで第二インターナショナル初の大会。教育勅語発布。社会問題研究会設立。ラフカディオ・ハーン来日。

三八年

旅順開城・日本海海戦。

三九年

東北凶作、窮民三四万人。経済恐慌のため失業多数。

大湊海軍修理工場罷業、軍隊鎮圧。

堺利彦ら日本社会党結成。西川光次郎ら日本平民党結成。幸徳秋水米国より帰国、直接行動論主張。

呉海軍工廠スト・暴動化。

北一輝『国体論及び純正社会主義』刊。島崎藤村『破戒』刊。夏目漱石『坊ちゃん』 久津見

蔵村『無政府主義』刊。

四〇年

『平民新聞』刊、三か月で発行停止。一月株市場暴落、戦後恐慌勃発。

足尾銅山暴動、軍隊出動。幌内炭鉱争議、軍隊出動。別子銅山暴動、軍隊出動。

『大阪平民新聞』刊。英独立労働党々主ケアハーデイ来日。片山潜ら社会主義同志会結成。

大正

二年

電力会社との抗争事件 長野電力会社の電力供給を排除し村営発電で自給しようとした村民と会社の抗争が騒擾化した。

三年

名古屋電車焼打事件 電車賃引上げに反対し、市民三万人が電車焼打、会社を襲撃したので警官、軍隊出動。

三〇七年

生活協同組合全国化 このころから消費組合

(生協)が全国化し始めた。

七年

米騒動 富山県の漁民の主婦の騒ぎから全国に飛火。参加した民衆百万人をこえた大騒擾。

八年

地代値上反対運動 福岡県若松市の地主が団結して値上げ。民衆の反対運動展開。

主婦の不買同盟 兵庫県赤穂の主婦不買同盟によって附近商店の値下げに成功。

地代値下期成同盟 東京芝浦理立地の住民の運動。

奸商征伐期成同盟 神戸・川崎造船所の労働者などが暴利を貪る商店にボイコット実行。これが神戸消費組合創立の端緒となる。

物価引下げハガキ戦術 東京・神田の全国消費同盟会が物価引下げの目的で一か月間ぜいたく品の不買同盟のアンケートを全国にハガキでアッピ

四〇年

『平民新聞』刊、三か月で発行停止。一月株市場暴落、戦後恐慌勃発。

足尾銅山暴動、軍隊出動。幌内炭鉱争議、軍隊出動。別子銅山暴動、軍隊出動。

『大阪平民新聞』刊。英独立労働党々主ケアハーデイ来日。片山潜ら社会主義同志会結成。

大正

三年

第一次大戦勃発。北浜銀行休業。生糸相場暴落。哲学・評論の流行。森鷗外『大塩平八郎』芸術座『復活』公演。

六〇八年

大正六年、七年、八年はストライキ及びロックアウトの争議件数が急激に上昇した年。これがロシア革命と米騒動によって深く影響されたことは明らかである。

八年

第三インターナショナル(コミンテルン)創立大会開催。東京市小学校教員八割増俸示威運動。

東京市内一六新聞社印刷工スト。東京砲兵工廠労働者六千人スト。釜石鉱山スト悪化、軍隊出動。大日本国粋会創立。

大原社会問題研究所設立。『我等』『解放』

『改造』『社会問題』『社会主義研究』創刊。北一輝『日本改造法案大綱』。

九年

東大森戸辰男筆禍事件。八幡製鉄所二万三千人スト(熔鉱炉の火を消す)。

戦後反動恐慌起る。株式・綿糸・生糸各市場未曾有の暴落。サンガー夫人来日。

各地に銀行取付頻繁。日本銀行、財界救済の非常貸出声明。

ヒトラー総統に就任。我国最初のメーデー挙。大杉栄・堺利彦・山川均など日本社会主義同盟結

一ルした。

九年

呉の労働者不買同盟。調印者一万人。

佐世保の不買同盟。労働者一万三千人が暴利を

貧る不正商人に抗議のため不買同盟。

主婦の購買組合設立。大阪・池田の主婦、妨害

を蹴って生協をつくる。

一〇年

借家人同盟生る。各地で借家争議続発。社会主

義者も参加するに至った。仙台でも積極的な運動

が展開された。

下宿代・制服代値下運動。東京の一八大学、専

門学校の学生有志の値下運動。

一五年

農村モラトリアム。長野県「土に親しむ会」の

活動。

成。

一一年

横浜ドック四三〇〇人スト。全国水平社第一回

大会。日本農民組合結成。

株式一斉暴落、不況慢性化。日本共産党秘密結

社として結成。有島武郎、北海道農場百町歩を小

作人に無償提供。ムソリーニ内閣成立。ソビエト

社会主義共和国連邦樹立宣言。

厨川白村『近代の恋愛観』刊。このころ民衆芸

術、恋愛の自由、赤化が流行語となる。

昭和

三年

電灯料金値下運動。長野県。

四年

灘神戸生協の抵抗。生協の発展に反感を抱いた

三千数百名の小売業者が代議士、県会議員らを陣

頭に立て生協圧迫、これに抵抗。

全国借家人同盟開かる。三割値下、敷金、権利

金の撤廃、強制立退反対、借家法の改正、失業者

家賃の国家負担を決議。

ガス不買運動。東京・独占ガス会社の値下要求

の運動拡大。

六年

全市消灯事件。豊橋市民電灯料金値下要求・会社

の送電中止に負けず、全市暗黒のなかに抵抗をつ

づけた。

電灯料金値下運動の全国化。兵庫県丹羽・但馬地

方をはじめ全国化。商店街消灯のなかに抵抗。

昭和

四年

浜口内閣の緊縮政策で深刻な不況、産業合理化

の強行で大量失業、物価急落、企業破産、農業危

機の深まり。

山本宣治暗殺。日共黨員大檢舉。

世界恐慌始まる。ニューヨーク株式暴落で糸仙

暴落。

小林多喜二『蟹工船』徳永直『太陽のない街』

『プロレタリア科学』創刊。映画「大学は出たけれ

ど」。

東京市電ゼネスト。

六年

満州事変勃発。

七年

満州国建国宣言。

五・一五事件

八年

水道料金全免要求
したことから紛争。

東京玉川水道が悪水を供給

一一年

卸売市場の独占化反対運動
築地中央卸売市場
の扱人を単数制にすることに反対した市民が複数
制を要求し市民世論の喚起につとめた。

一二年

農村危機深刻化、左翼弾圧時代
「非常時」「挙国一致」など流行語となる

二・二六事件

左翼文化団体一斉検挙。右翼団体進出。
ヒューマンイズム論やインテリに対する批判おこ
る。映映「人生劇場」。「準戦時体制」のことば行
われる。

一二年

日華事変勃発。

「愛国行進曲」大いにうたわれる。「持てる国
と持たざる国」流行語となる。

大 門 一 樹

明治41年大阪府に生まれる。
昭和7年京都大学経済学部卒業。
現在、関東学院大学教授。
著書「経済社会の衰退過程」(理想
社)「消費者の心理」(三一書房)
「ゆがめられた消費」(ダイヤモンド
社)「地位の象徴」(光文社)「欲望の
経済学」(至誠堂)「社会主義と欲望」
(東洋経済新報社)「広告のなかの現
代人」(社会新報)
現住所 横浜市西区北郷井沢55

物 価 抵 抗 史 ——立ちあがる消費者——

三省堂新書 19
定価 250 円



昭和43年2月20日 初版発行

著 者 © 大 門 一 樹
発 行 者 株式会社 三 省 堂
代表者 小 倉 正 風
発 行 所 株式会社 三 省 堂
東京都千代田区神田神保町1の1
電話 東京(293)3441(大代表)
振替口座 東 京 54300

刊行のことば

精神の荒野に、知性の断層に、対話を生み出してゆくこと、これが『三省堂新書』の願いである。孤立した精神に新しいいぶきを吹き込み、英知の水脈をひらき、きょうとあすとをつなぎ、主体と総体のこだまを呼び起こして、荒廢の谷間をうずめてゆきたい。なによりも、書物の受け手と送り手とが同じ鼓動に結ばれて、ともに考えていく姿勢を広げていくことが『三省堂新書』の深い願いである。願いを満たす基盤は、民主主義の正統を受け継いで、それをさらに発展させる絶えまない歩みである。歴史を民衆の立場からつかんで、伝統の地中に創造の火を掘り起こす努力である。人々の幸福と世界の平和への希求を貫いて、内外の潮流を明らかにしていく作業である。これはもとより、新奇と着想ではない。民衆の自己教育の体系であるべき、出版文化の本来の針路である。

ふりかえれば、三省堂の歩みは一八八一年（明治十四年）の創業以来、つねに、学習する新しい世代と固く結ばれ、その出版活動は辞書・教科書・参考書に代表されてきた。この長い歩みの上に立つて誕生する『三省堂新書』は、先人の思想と体験を探る人々には生きた辞書となり、歴史をどうみるかを学ぼうとする人々には生きた教科書となり、そして自らの内部に深く目を注ぎ、あすの自己あり方を考える人々には生きた参考書となるであろう。

対話の喪失に悩むすべての人々をささえることによって、その人々にささえられることを期待し、未来への願いをこめて『三省堂新書』を世に問うものである。

一九六七年九月